

# 病児保育施設の利用支援による子育てと仕事の両立

B  
7

## 富山市第二機械工業センター協同組合

住 所	〒939-8093 富山県富山市大泉東町1丁目4番1号		
U R L	<a href="http://www.kenseimitsu.or.jp/kikai_c/toyama/index.html">http://www.kenseimitsu.or.jp/kikai_c/toyama/index.html</a>		
設 立	昭和42年9月	主 な 業 種	機械金属製品製造
組 合 員 数	12人	出 資 金	5,170千円

### ■背景・目的

働きながら子育てをする母親は、子供が病気になったときには欠勤を余儀なくされることが多い。そのことは企業にとっての不利益もさることながら、母親にとっても自己の職責を全うできないことへの葛藤がある。子供の緊急事態時にも安心して勤務できる環境づくりを目指すことを目的として本事業を開始した。

### ■取組みの手法と内容

仕事を持つ母親として、子供が病気になった時でも安心して勤務できるようにしたいと勤務先に相談したキーパーソンの発案を端緒として、組合事務局と協力して病児保育に関する実態調査を開始。実際のニーズを調べるために組合員企業へアンケートによる全数調査を実施。回収、集計、分析を進めつつ、既存の病児保育施設を有する事業所の視察や公的助成制度の調査も並行して実施した。

その中で浮き彫りになってきたのは、施設を設置する場合の資金負担や場所の確保、開設までの所要時間等の問題であった。一方、既存の専門施設との提携も選択肢に入れることが考えられたが、その提携の内容に加えてそもそもどのような施設があるのかも不明であった。さらに、保育の実績や経験を持たないものが運営することに対する懸念も重なったが、組合事務局と粘り強く情報を収集していく中でようやく連携可能な保育施設(わかかさ保育園)を見つけることができた。幸い、組合員の従業員の大半が居住するエリアに所在し、富山市の補助金も利用できることから、早速従業員を対象に説明会を開催し、施設の利用登録を促した。

父親からの登録が予想を超えて3分の2にも及び、その数の多さは組合内の意識の高さを裏付けることとなった。事業開始後4か月での利用日数は延べ25日となり、従業員の安心感を保証しているといつてよい。

### ■成果とその要因

令和元年6月の事業開始以降、9月末までの4か月間で利用者は10名、利用延べ日数では25日に及んでいる。利用登録者の3分の2が男性(父親)であることは、想定を超えた認知度と活用度合いである。また、子育て中の母親を主な対象としていたが、実際は祖父母も利用することがあることから、幅広い利用者が見込まれている。

外部との連携



病児保育の申し込み用パンフレット



病児保育を実施する前の説明会風景



Point

アンケート調査でニーズの把握に努め、病児保育施設の実態調査によって資金負担の少ない連携を模索したこと、さらに、事業実施に際して予め説明会を開催したことである。